

平成 30 年 2 月 13 日

各 位

日本マクドナルドホールディングス株式会社
 代表取締役社長 サラ・L・カサノバ
 (コード番号：2702 JASDAQ)
 問い合わせ先 執行役員 IR統括責任者 中澤 啓二
 TEL 03-6911-6000

平成 29 年 12 月期通期連結決算状況、平成 30 年 12 月期連結業績予想
 及び
 中期経営方針策定のお知らせ

日本マクドナルドホールディングス株式会社の平成 29 年 12 月期（平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日）の通期連結業績について下記の通りご報告致します。

ハイライト

- 過去数年間取り組んできたビジネス基盤の強化と、店舗と人材への投資を積極的に行った結果、売上高、利益ともに対前年比で大幅に増加
- 既存店売上高は 2 期連続で二桁プラスを達成
- 平成 30 年度よりビジネスは回復から新たな成長のステージに移行し、中期的に持続的かつ着実な成長を目指す

1. 平成 29 年 12 月期通期連結決算状況

(単位：百万円)

	平成 29 年通期			
	実績	前年実績	対前年比	対前年比(%)
全店売上高*	490,188	438,488	+51,700	+11.8%
連結売上高	253,640	226,646	+26,994	+11.9%
連結営業利益	18,912	6,930	+11,981	+172.9%
連結経常利益	19,718	6,614	+13,103	+198.1%
親会社株主に帰属する 連結当期純利益	24,024	5,366	+18,657	+347.6%

*全店売上高：直営店舗とフランチャイズ店舗の合計売上高

	平成 29 年通期
	対前年比(%)
既存店売上高	+12.2%
既存店客数	+8.9%
全店客数	+8.5%

平成 29 年度につきましては、この数年間継続してきた様々な取り組みと、店舗や人材への投資を積極的に行ったことで、ビジネス基盤を大変強固なものとすることができました。

おいしくてお得感のあるメニューのご提供、お客様にも一緒にお楽しみいただけるプロモーションの企画、既存店舗の改装、人材への投資による店舗体験の向上などが相乗効果を発揮した結果、全店売上高は対前年比 517 億円、11.8%増加の 4,901 億円となりました。また、売上高の増加や店舗収益性の改善により、経常利益は対前年比 131 億円増加の 197 億円、当期純利益は 186 億円増加の 240 億円となりました。

2. 平成30年12月期 連結業績予想

平成30年度からは新たな成長のステージに移行し、持続的かつ着実な成長を目指してまいります。平成30年度は、ビジネス基盤のさらなる強化のため『店舗と人材への投資の強化』、『既存店成長のため「メニュー」「バリュー」「ファミリーブランド」の活動』、『新規出店の加速』、『成長を加速させるデリバリーやデジタル分野への投資』を行うことで、お客様の店舗体験の更なる向上を実現し、持続的かつ着実な成長を目指してまいります。

(単位：百万円)

	平成30年通期	
	業績予想	対前年比
全店売上高	520,000	+6.1%
連結売上高	269,000	+6.1%
連結営業利益	21,800	+15.3%
連結経常利益	21,700	+10.0%
親会社株主に帰属する 連結当期純利益	19,500	▲18.8%

3. 中期経営方針

平成29年度までにビジネスリカバリープランの一環として実施した様々な取り組みにより、ビジネスは回復のステージから新たな成長のステージへと移行してまいりました。それを受けまして、この度、持続的成長、収益性、マクドナルドブランドの更なる向上を目指し、以下の通り平成30年度から平成32年度の中期経営方針を公表いたします。

① 成長戦略

- ・マクドナルドらしいおいしいメニューをお得感のある価格でご提供
- ・ファミリー層を中心にマクドナルドブランドを向上
- ・デジタル、デリバリー、未来型店舗体験のご提供
- ・新規出店を含む店舗ポートフォリオの最適化

② 財務目標

全店売上高	年平均伸び率5%以上
営業利益／経常利益	年平均伸び率10%以上
ROE	10%以上

以上

※この資料は兜倶楽部、東京商工会議所記者クラブ、外食産業記者会に配布しております。